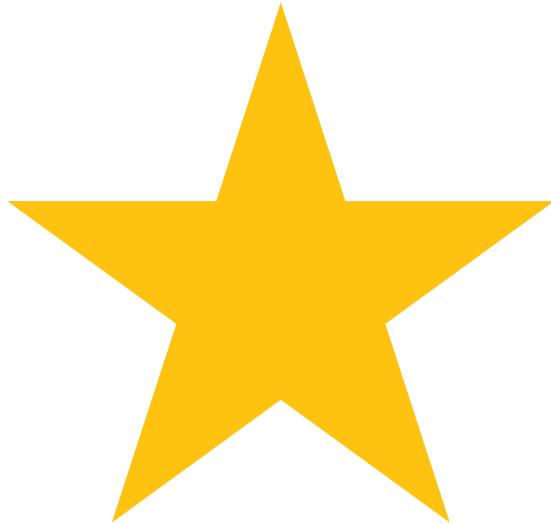


第
86
期

株主通信

2009年1月1日から2009年12月31日まで

SAPPOROの「今日」をお伝えします。



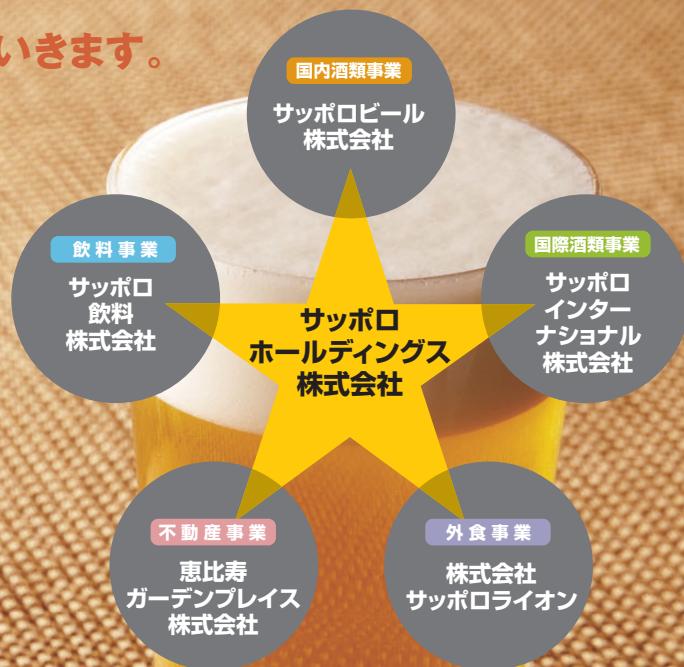
SAPPORO

サッポロホールディングス株式会社

社会から信頼され、 期待され続ける企業へ。

「食」と「空間」の2つの分野で、
価値ある商品・サービスを提供していきます。

「安全・安心・健康」をキーワードに、幅広く「食」の分野でお客様が望まれる価値を提供する「食品価値創造事業」。飲食店舗・商業施設・オフィス・住宅など街づくり全体で、豊かな時間を過ごすことができる快適な空間を提供する「快適空間創造事業」。サッポログループは、この2つの事業領域で既存事業の成長を図るとともに、新たなビジネスチャンスを見出し、次代の成長を支える新規事業の創出を図ります。



新たな価値創造に向けた挑戦を

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
企業を取り巻く環境は、依然として厳しさを増し続けており、先行きの不透明感を払拭するには至っておりません。こうした中、昨年、当社グループは、コスト競争力の強化を目指し、事業基盤の改革を進めてまいりました。また、将来の成長への布石として、食品事業での丸大食品グループとの合弁事業、ポッカコーポレーション社との資本・業務提携、ベトナムでのビール事業進出といった、新たな取り組みに着手いたしました。

これらは、当社グループの長期経営方針である「サッポログループ新経営構想」に基づくものであり、新しいサッポログループの価値創造に繋がるものと考えております。

当社グループは、これからも株主の皆様をはじめとするすべてのステークホルダーの信頼を高める誠実な企業活動を実践し、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 兼 グループCEO

村上隆男

Q 第86期(2009年1月1日から2009年12月31日まで)の連結業績に対する分析・評価をお聞かせください。

A 利益目標を達成し、将来への成長に向けた布石となる取り組みを実行しました。

一昨年秋のリーマンショック以降の世界同時不況は、当時の予想をはるかに超え、昨年も年間を通じ厳しい環

境が続きました。こうした中、当社グループは、利益目標の達成を最重要課題として取り組んできました。

当期の業績としては、酒類事業での低価格の新ジャンル売上構成比の増加、外食事業での需要減退、更に夏場の天候不順の影響などにより減収となりました。

しかしながら、利益面では、全社的な構造改革の推進、主力ブランドへの経営資源の集中などにより、計画を上回ることができました。経常利益は、3年連続の増益を



達成し、また、営業利益も、当期からの会計・税務制度の変更による営業費用の増加要因を除けば、実質的に増益とすることができました。昨年を総括すると、構造改革が大きく進展し、安定した収益基盤の構築という面で大きく前進したものと考えています。

また、将来の成長に向けて、新経営構想に掲げた基本戦略「戦略的提携の実施」、「国際事業の展開」に則った取り組みを進めることができました。

Q 昨年9月、御社はポッカコーポレーション社と資本・業務提携を締結されました。本提携の狙いと効果について教えてください。

A ポッカコーポレーション社との提携は、大きな可能性があるものと期待しています。

ポッカコーポレーション社は、主力である飲料事業のほかにも、トップシェアを持つ缶スープなどの食品事業、100店舗以上のカフェ業態を展開する外食事業、30年以上の歴史を持ち、高い市場シェアを誇る

東南アジアでの国際事業など、数多くの強みを持つ企業です。提携による効果は、飲料事業のみならず、幅広い分野で実現できるものと考えています。

昨年の提携合意後、グループ全体で、同社と提携効果の具体化に向けた検討を開始しました。すでに、飲料事業では、生産、購買などで具体的な取り組みを実行しています。今後は、国内酒類、国際酒類、外食などでも、シナジーの拡大に向けた検討を進めます。具体的な事例では、同社が強力な販売網を持つシンガポールで、サッポロビール製品の販売を進めることが決まりました。従来、シンガポールでのビール販売は業務用が中心でしたが、同社の家庭用での強力な流通網を活用し、事業拡大を実現したいと考えています。

Q 海外展開の基本戦略と具体的な施策に関してご説明をお願いします。

A 将来のグループの成長基盤として国際展開を積極的に進めていきます。

昨年12月にベトナムでのビール事業進出を決定しました。今後、2011年秋の稼働を目指し、日本のビールメーカーとしては初めてベトナムに工場を建設します。

ベトナムの人口は約8,600万人、平均年齢が28～29歳と非常に若い国です。ビール市場は、約200万KLと、現在の日本の1/3程度ですが、アジアでは、中国、日本に次ぐ第3位の位置づけです。年々需要は大幅な伸びを示しており、将来、ビール消費大国になることは間違いありません。

さらに、今回の事業では、ベトナムの国営たばこ会社「ビナタバ社」と合併を組むこととしました。同社が保有する広域の販売力、信用力などは、事業成功への大きな力となるものと考えています。

当社は、今回、事業の橋頭堡を築くことができたアジア市場、更には従来からの強みを持つ北米市場、この2つの市場をターゲットとし、積極的な国際展開を進めます。

Q 御社グループの「成長シナリオ」をお聞かせください。

A 新たな経営計画の下、成長軌道への転換を果たします。

本年、新たに「サッポログループ経営計画2010年-2011年」を策定しました。この経営計画のポイントは、「成長軌道への転換」です。

収益基盤強化は企業の永遠の課題であり、今後も継続して取り組みを進めてまいります。将来に向けた取り組み、具体的には、既存事業のブランド力の強化、さらに、戦略的提携による取り組みなどを着実に進め、グループの成長を実現します。

各事業の成長シナリオは、次のとおりです。

まず、国内酒類事業では、高付加価値を基軸としたビール類の新しい商品提案、更にはワイン・焼酎などの事業拡大を図ります。国際酒類事業は、北米・アジアでの事業拡大を進め、将来のグループの成長を牽引する事業とします。飲料事業は、独自価値を持ったブランド展開、ポッカコーポレーション社との提携

効果の最大化などにより事業拡大を図ります。外食事業は、グループの重要な顧客接点として、ブランド力、収益基盤を強化します。不動産事業では、保有する資産の価値向上に向けて、リノベーション等による収益力の強化、再開発などを進めます。

以上の戦略を着実に実行し、持続的なグループの成長を実現したいと考えています。

Q 株主の皆様への利益還元については、どのような方針をお持ちでしょうか。

A 当期は7円配当を継続します。

株主様への利益還元は経営上の重要政策であると考えています。

当期の配当は、前期に増配した配当水準を維持し、年間7円とさせていただきます。今後も、安定した配当の維持を基本とし、業績や財務状況を勘案して配当を行うことを基本方針としてまいります。

そして、「サッポログループ新経営構想」に基づく経営計画を着実に遂行することで、持続的な成長を実現し、株主価値の向上を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

持続的成長に向けた取り組みと収益基盤の強化を進め、 連結経常利益で3年連続の増益を達成しました。

世界同時不況に伴う個人消費の低迷など厳しい経営環境が続く中で、
将来の成長を見据えた各種施策の実行と、継続的なコストコントロールの徹底を図りました。

2009年12月期の経営環境は、世界同時不況の影響により厳しい状況で推移しました。サッポログループは、2007年に発表した「サッポログループ新経営構想」のローリングプランとして、2009年2月に「サッポログループ経営計画2009年-2010年」を策定。同計画の重点テーマである「持続的成長へ向けた取り組み」と「強みを活かした事業展開と収益基盤の強化」を進めました。

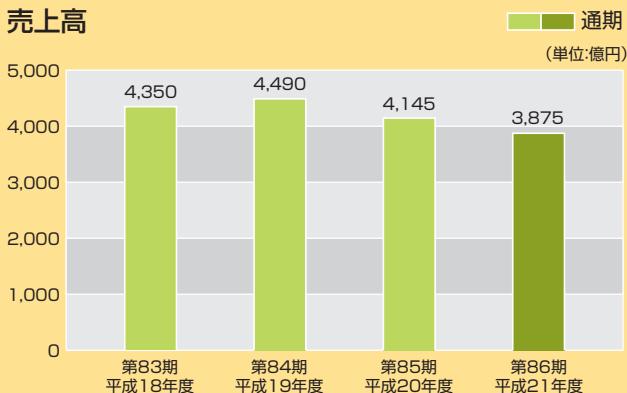
将来の持続的な成長を視野に入れて、ベトナムへのビール事業の進出決定や、ポッカコーポレーション社との資本・業務提携締結といった布石を着実に打つ一方、収益の更な

る安定化を実現するため、コスト構造改革とコストコントロールの徹底を図りました。

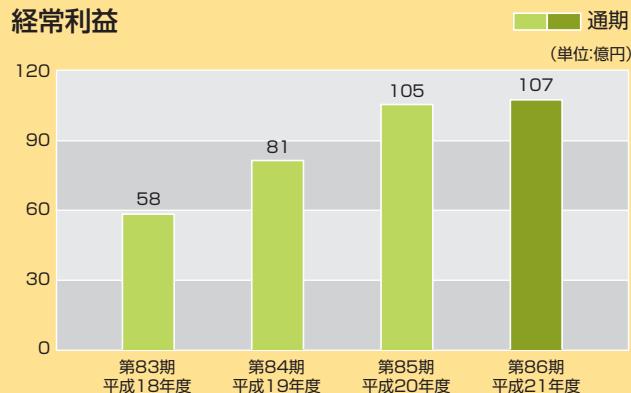
こうした取り組みの結果、当期の連結業績は、売上高3,875億円(前期比270億円、7%減)、営業利益128億円(前期比17億円、12%減)、経常利益107億円(前期比1億円、2%増)、当期純利益45億円(前期比31億円、41%減)となりました。

営業利益および当期純利益の前期との差異は、主として、会計・税務制度の変更に伴う減価償却費等の増加、並びに前期、固定資産売却益を計上したことによるものです。

売上高



経常利益

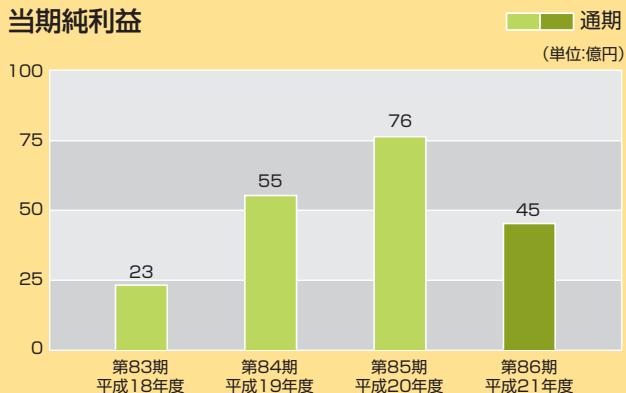


連結損益計算書(要旨) 1月1日~12月31日

(単位:億円)

科 目	第83期(平成18年度)	第84期(平成19年度)	第85期(平成20年度)	第86期(平成21年度)
	通 期	通 期	通 期	通 期
売上高	4,350	4,490	4,145	3,875
売上原価	3,001	3,050	2,881	2,676
売上総利益	1,349	1,439	1,264	1,198
販売費及び一般管理費	1,263	1,315	1,117	1,069
営業利益	86	123	146	128
営業外収益	23	23	17	22
営業外費用	51	65	58	43
経常利益	58	81	105	107
特別利益	26	75	260	9
特別損失	45	154	185	28
税金等調整前当期純利益	39	2	179	88
法人税等	16	△52	103	43
少数株主利益(△損失)	△0	△0	△0	△0
当期純利益	23	55	76	45

当期純利益



セグメント別売上高構成比





国内酒類事業

事業の概況 特殊要因による費用増加で、営業利益は微減となりました。

国内のビール類総需要は、景気の停滞や夏場の天候不順の影響で前期比97.9%になったものと推定されます。

サッポログループでは、「エビス」ブランドが堅調に推移したほか、「麦とホップ」が大幅に伸ばしましたが、業務用市場の低迷や低価格の新ジャンル構成比の上昇などにより、ビール類全体の売上高は前期比5%減となりました。ワイン事業は減収増益、焼酎は乙類焼酎が業務用市場へ着実に浸透したことも寄与し増収増益となりました。会計制度変更による費用増21億円を除けば実質大幅増益となりました。

	(単位：億円)	
	売上高	営業利益
2008年実績	2,996	77
2009年(中間)実績	1,327	△0
2009年実績	2,829	74
2010年計画	2,850	75

今後の展望 独自価値の提案を通じて売上拡大と収益向上を図ります。

「乾杯をもっとおいしく。」をコミュニケーションメッセー

ジとして、サッポロならではの独自価値を提案し、売上拡大と収益向上を目指します。

ビールブランドのロングセラーである「エビスビール」「サッポロ生ビール黒ラベル」と新ジャンルの「麦とホップ」を3本柱として展開するとともに、2009年10月に発売した機能系新ジャンルブランド「オフの贅沢」の育成など、新たな「おいしさ」も訴求していきます。

コスト面では、原料・資材の価格変動に対する有効な購買施策の実行、柔軟な生産即応体制の確立、販売促進費をはじめとする経費の効率的支出などにより、収益基盤の一層の強化を進める計画です。



国際酒類事業

事業の概況 北米のプレミアム市場に対し、積極的な販売活動を行いました。

前期に引き続き、北米のプレミアム市場において積極的な販売活動を行いました。スーパープレミアム価格帯で事

業展開するサッポロUSA社は、米国経済の著しい減速の影響を受けて売上数量は前期比87%となりましたが、スリーマン社(カナダ)の売上数量は前期比110%となりました。

国際酒類事業全体の売上高は、現地通貨建てでは前期を上回ったものの、為替の影響で円建ての金額が目減りし前期比10%の減少となりました。

(単位: 億円)

	売上高	営業利益
2008年実績	250	9
2009年(中間)実績	104	△1
2009年実績	225	6
2010年計画	260	10

今後の
展望

**ベトナムやシンガポールなど
新市場の開拓を加速します。**

スリーマン社ではブランド価値の維持・向上のためにマーケティング投資を継続し、総需要の伸びを上回る売上数量達成を目指します。またサッポロUSA社では、日系市場以外への展開を強化していきます。

輸出事業および現地生産については、新市場の開拓と不採算地域からの撤退を同時に視野に入れながら、国際酒類事業全体の発展を目指していきます。中でも2009年12月に進出を決定したベトナム市場では、ビール工場建設に着手するとともに、テストマーケティングを開始

して事業基盤を構築します。またシンガポール市場については、2009年に出資したポッカコーポレーション社とのシナジー追求を通じて、家庭用市場への販路拡大を実現します。



飲料事業

事業の
概況

**持続的な利益体質への転換に向け
「選択と集中」を推進しました。**

「リボンシロン」「ゲロルシュタイナー」など既存ブランドの育成・強化に向けたマーケティング戦略を展開しました。また、持続的な利益体質への転換を目標に、「選択と集中」による収益力強化プログラムの推進、生産拠点の最適化、原料・資材調達コストの適正化といった各種施策を実行しました。

(単位: 億円)

	売上高	営業利益
2008年実績	368	2
2009年(中間)実績	148	△0
2009年実績	307	3
2010年計画	320	7

今後の展望 ブランド力の強化と戦略的提携を活かした施策を推進します。

101年目を迎えたリボンシトロンを中心とした「リボン」シリーズ、天然炭酸水「ゲロルシュタイナー」、リニューアル展開する「がぶ飲み」シリーズなど、既存ブランドの育成・強化策を中心としたマーケティング戦略を継続します。また、各バリューチェーンにおけるコスト適正化を更に徹底するとともに、ポッカコーポレーション社との戦略的提携により、調達・物流・生産等、スケールメリットを活かした取り組みを進め、持続的、安定的な利益確保に努めます。



外食事業

事業の概況 グループをあげた販促活動で売上高の確保に努めました。

パブ・居酒屋業態では、消費者の節約志向に法人需要の減少も加わり、大幅な来客減と客単価の低下に歯止めが掛からない厳しい状況が続いています。サッポログループでは、「ビヤホールの日」キャンペーンや企業訪問による宴会勧誘などを通じて売上確保に努めましたが、外部環境の悪化をカバーするには至りませんでした。

当期の新規出店は「YEBISU BAR(エビスバー)」第1号店など13店舗、閉鎖は6店舗で、当期末の総店舗数は211店舗となっています。

	(単位:億円)	
	売上高	営業利益
2008年実績	295	5
2009年(中間)実績	132	△4
2009年実績	280	△1
2010年計画	270	2

今後の展望 既存店部門の早期の収益回復に全力を傾注します。

不採算店舗の閉鎖や賃料等の固定費削減を進めると同

時に、シフト管理の徹底による人件費のコントロールによって既存店部門の収益を早期に回復させる計画です。また、新規出店については、出店規模を一時的に抑制するものの、不況下における消費者のライフスタイルの変化に対応した着実な展開を進めていきます。



PRIVATE DINING 点 新宿三丁目東宝ビル店
TEL. 03-5312-9930



くつろぎ・うま酒 かいこや 新宿三丁目東宝ビル店
TEL. 03-5312-9951

●店舗住所：東京都新宿区新宿3-5-4 新宿三丁目東宝ビル(RAINBOW VILLAGE)7階

不動産事業

事業の概況

稼働率・賃料水準の維持向上と一層のコスト削減を進めました。

首都圏オフィス賃貸市場で空室率や賃料の下落傾向が続く中、サッポログループでは、恵比寿ガーデンプレイス・オフィスタワーをはじめとする既存物件の稼働率・賃料水準の維持向上と一層のコスト削減に取り組みました。また不動産開発については、2009年9月に恵比寿地区の商業施設「MLB café TOKYO」が開業し、11月には名古屋地区の分譲マンション「千種ガーデンテラス」が竣工しました。

当期の業績が小幅ながら減収減益となったのは、前期に

恵比寿ガーデンプレイスの15%共有持分を売却した反動であり、当事業の拡大基調に変化はありません。

	(単位：億円)	
	売上高	営業利益
2008年実績	234	76
2009年(中間)実績	111	35
2009年実績	232	75
2010年計画	245	80

今後の展望

オフィス賃貸事業の収益力保持と不動産開発の進展に注力します。

オフィス賃貸事業に関しては、恵比寿ガーデンプレイスを中心とした保有物件について稼働率の維持向上と適正水準での賃料改定を進め、収益力の保持強化に努めていきます。また、不動産開発を積極的に推進するとともに、新規の物件取得にも注力し、更なる収益拡大を目指します。



恵比寿ガーデンプレイス(東京都渋谷区)



MLB café TOKYO(東京都渋谷区)

11 連結貸借対照表(要旨) 12月31日現在 (単位:億円)

科目	平成21年度	平成20年度
	当期	前期
〔資産の部〕		
流動資産	1,022	1,294
現金及び預金	63	224
受取手形及び売掛金	601	622
たな卸資産	-	214
商品及び製品	132	-
原材料及び貯蔵品	96	-
その他	127	232
固定資産	4,045	3,978
有形固定資産	3,178	3,192
建物及び構築物	1,763	1,808
機械装置及び運搬具	439	462
土地	843	788
その他	130	131
無形固定資産	218	209
投資その他の資産	648	576
1 資産合計	5,068	5,272

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 平成20年度通期 3,282億円
平成21年度通期 3,384億円

(単位:億円)

科目	平成21年度	平成20年度
	当期	前期
〔負債の部〕		
流動負債	1,692	2,132
買掛金	201	238
短期借入金等	467	635
未払酒税	352	355
その他	670	902
固定負債	2,190	1,972
社債	438	538
長期借入金	1,062	718
受入保証金	320	320
その他	369	394
2 負債合計	3,882	4,104
〔純資産の部〕		
株主資本	1,193	1,191
資本金	538	538
資本剰余金	463	463
利益剰余金	202	199
自己株式	△11	△10
評価・換算差額等	△9	△24
その他有価証券評価差額金	26	30
繰延ヘッジ損益	0	-
為替換算調整勘定	△36	△55
少数株主持分	2	2
純資産合計	1,185	1,168
負債純資産合計	5,068	5,272

2

3

1 資産について

(株)ポッカコーポレーションの株式取得による投資有価証券の増加や土地の新規取得などによって固定資産が増加したものの、現金及び預金の減少による流動資産の減少によって、前連結会計年度末と比較して204億円減少し、5,068億円となりました。

2 負債について

長期借入金は増加したものの、社債の減少や短期借入金等の減少、並びに預り金の減少などによって、前連結会計年度末と比較して221億円減少し、3,882億円となりました。

3 純資産について

在外子会社の当連結会計年度末日の為替レートが前連結会計年度末日と比べ円安となったことによる為替換算調整勘定の増加や利益剰余金の増加などによって、前連結会計年度末と比較して17億円増加し、1,185億円となりました。



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) 1月1日~12月31日 (単位:億円)

科目	平成21年度	平成20年度
	当期	前期
営業活動によるキャッシュ・フロー	124	222
投資活動によるキャッシュ・フロー	△322	168
財務活動によるキャッシュ・フロー	37	△222
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△159	163
現金及び現金同等物の期首残高	222	58
現金及び現金同等物の期末残高	62	222

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は124億円(前期比98億円、44%減)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益88億円、減価償却費225億円、のれん償却額10億円等による増加要因と、ビールギフト券販売終了に伴う預り金の減少197億円等の減少要因によるものです。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、322億円(前期は168億円の収入)となりました。これは主に、関係会社株式の取得による支出80億円、有形固定資産の取得による支出183億円、無形固定資産の取得による支出34億円があったことによるものです。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は、37億円(前期は222億円の支出)となりました。これは主に、長期借入れによる収入500億円等があった一方、長期借入金の返済による支出172億円、社債の償還による支出197億円、配当金の支払額27億円等があったことによるものです。

連結株主資本等変動計算書(要旨) 1月1日~12月31日

(単位:億円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成20年12月31日残高	538	463	199	△10	1,191	30	-	△55	△24	2	1,168
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減			△14		△14						△14
当連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△27		△27						△27
当期純利益			45		45						45
自己株式の取得				△1	△1						△1
自己株式の処分		△0		0	0						0
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)						△4		19	15	△0	14
当連結会計年度中の変動額合計	-	△0	17	△0	17	△4	0	19	15	△0	32
平成21年12月31日残高	538	463	202	△11	1,193	26	0	△36	△9	2	1,185

会社概要 (平成21年12月31日現在)

商号	サッポロホールディングス株式会社 SAPPORO HOLDINGS LIMITED
設立	1949年9月1日(創業明治9年)
本社	〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号 (恵比寿ガーデンプレイス内)
電話	03-6694-0002(経営戦略部)
資本金	53,886,649,941円
事業内容	持株会社
連結対象会社数	42社(連結子会社35社、持分法適用会社7社)
従業員数	73名(グループ従業員数:3,895名)
決算期	12月31日

役員 (平成21年12月31日現在)

代表取締役社長 兼 グループCEO	村上 隆男
代表取締役専務 兼 グループ執行役員	福永 勝 サッポロビール株式会社 代表取締役社長
常務取締役 兼 グループ執行役員	持田 佳行 サッポロインターナショナル株式会社 代表取締役社長
常務取締役	上條 努
取締役(社外)	衛藤 博啓 株式会社パンナグループ 社外取締役
取締役(社外)	田中 宏 株式会社クレハ 取締役会長
取締役(社外)	勝保 宣夫 丸紅株式会社 取締役会長 横河電機株式会社 社外取締役
取締役 兼 グループ執行役員	牛尾 和夫 恵比寿ガーデンプレイス株式会社 代表取締役社長
取締役	田中 秀典
取締役	加藤 容一 経営戦略部長
常勤監査役	穴戸 賢一
監査役(社外)	竹原 功 株式会社ニッセイ基礎研究所 代表取締役社長
監査役(社外)	辺見 紀男 弁護士
監査役	阿江 敬三
グループ執行役員	鈴木 英世 サッポロ飲料株式会社 代表取締役社長
グループ執行役員	山崎 範夫 株式会社サッポロライオン 代表取締役社長
グループ執行役員	赤坂 敏明

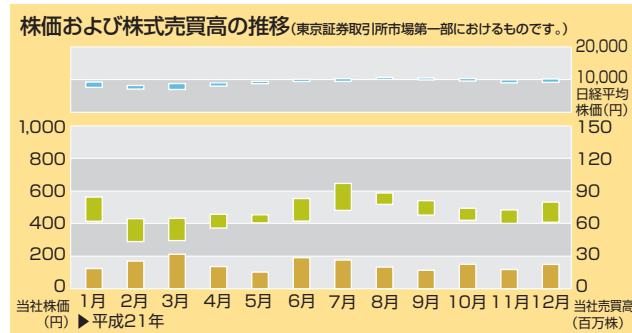
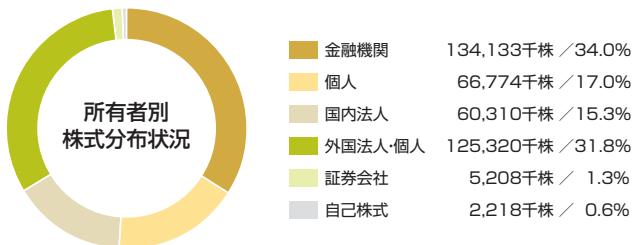
株式の状況 (平成21年12月31日現在)

発行済株式総数……393,971,493株
株主数……47,139名

大株主(上位10名およびその状況)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
スティーラパートナーズ ジャパンストラテジック ファンド(オフショア),エルピー	69,150	17.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,471	3.2
日本生命保険相互会社	12,332	3.1
資産管理サービス信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ信託銀行口	12,212	3.1
明治安田生命保険相互会社	10,434	2.7
ジェービー モルガン チェース バンク 380055	9,713	2.5
農林中央金庫	9,375	2.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,287	2.4
株式会社みずほコーポレート銀行	8,698	2.2
丸紅株式会社	8,246	2.1

*上記大株主の状況は株主名簿によっています。また、持株比率は自己株式(2,218,784株)を控除して計算しています。



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
配当金受領の株主確定日	12月31日および中間配当を実施するときは6月30日
定時株主総会	3月下旬
基準日	12月31日その他臨時に必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
単元株式数	1,000株
上場証券取引所	東京(第1部)、札幌
証券コード	2501
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付／電話お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 (フリーダイヤル)0120-288-324 (ご利用時間:土・日・祝日を除く9:00~17:00)
	専用ホームページ“お手続き内容”で一部届出用紙の出力ができます。 http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/
公告方法	電子公告により行い、公告掲載場所は当社のホームページ http://www.sapporoholdings.jp/ といたします。 ただし、やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
特別口座	特別口座とは、株券電子化前に証券会社等に口座を開設し、証券保管振替機構に株券を預託されなかった株主様の権利を保全するために、当社が上記のみずほ信託銀行株式会社に開設した口座のことをいいます。

株式事務に関するご案内

証券会社でお取引をされている株主様

お手続きお問い合わせ先	お取引のある証券会社
お手続き内容	住所変更、名義変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取り方法のご指定、相続に伴うお手続き等

特別口座に記録されている株主様

お手続きお問い合わせ先	<特別口座の口座管理機関> 左記の株主名簿管理人(みずほ信託銀行株式会社証券代行部)
	<取次所> みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店 および全国各支店
お手続き内容	住所変更、名義変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取り方法のご指定、相続に伴うお手続き等
特別口座での留意事項	特別口座では、株式の売却はできません。売却するには、証券会社にお取引の口座を開設し株式の振替手続きが必要となります。 ※単元未満株式の買取・買増請求は特別口座のままで可能です。詳しくは、左記の株主名簿管理人(みずほ信託銀行株式会社証券代行部)にお問い合わせください。

※未払配当金のお支払いにつきましては、両株主様ともに左記の株主名簿管理人(みずほ信託銀行株式会社証券代行部)が承ります。



当社では、株主様の日頃のご支援にお応えするために株主様ご優待制度を実施しております。2009年度の株主様ご優待の詳細につきましては、対象の株主様に優待申込書を3月8日に発送させていただいております。お申込みの締め切りは3月31日必着となっておりますので、ご注意ください。ご優待品のご送付は4月中旬以降を予定しております。

また、優待申込書をご返送いただけなかった株主様には、清涼飲料水詰め合わせセットを5月中旬以降にご送付いたします。なお、お届け先は、株主総会招集ご通知が送付されたご住所となりますので、予めご了承くださいませようお願いいたします。

2009年度の概要

対象	2009年12月末時点で 1,000株以上ご所有の株主様	内容	各種優待品の中から1つ 選択していただけます。
-----------	---------------------------------	-----------	----------------------------

1,000株以上5,000株未満



5,000株以上



※上記とは別にサッポロライオンチェーン優待券を1,000株以上ご所有の株主様に、5枚贈呈いたします。
※商品の内容は変更となる場合がございます。

ホームページのご案内

<http://www.sapporoholdings.jp/>

当社のホームページでは株主の皆様に対して、IR情報や決算情報をはじめとした情報開示を行っていますので、ぜひご利用ください。
また、当ホームページから各事業会社のホームページサイトへ入ることができます。



「CANPAN第3回CSR大賞」 情報開示部門で金賞を受賞



市民2万人以上の
直接投票によるCSR評価で
3年連続の受賞を達成

2009年10月、サッポロホールディングス株式会社は、日本財団が主催する「CANPAN第3回CSR大賞」の情報開示部門で金賞を受賞。2007年の第1回のグランプリ、2008年の第2回の情報開示部門銀賞に続いて3年連続の受賞という栄誉に輝きました。

「CANPAN CSR大賞」は、CSRの取り組みを積極的に行っている企業を奨励し、応援することを目的として設けられた、日本初の市民投票による企業評価制度です。

第3回を迎えた2009年は、9月から10月にかけてインターネット投票が実施され、21,717名の市民から熱い1票が投じられました。その結果、当社は多くの市民の方々からCSRに対する持続的な取り組みとその情報開示に対して高い評価をいただくことができました。

また、同じく日本財団が運営する企業のCSR関連サイト「CANPAN CSRプラス」においては、企業に求められているCSRの取り組みの質的評価で第3位となりました。これは東証一部上場



企業を中心に、各社が取り組むCSR情報を提供するために蓄積した経年のデータベース(約1,900社登録)をもとに、2009年より各社の取り組みの質的評価をランキングしたものです。今回は情報開示度などの点で高い評価を受けました。

サッポログループは「潤いを創造し豊かさに貢献する」を経営理念に掲げ、長年にわたってCSR経営に注力してきました。ビール工場での再資源化100%や温室効果ガス50%以上削減、お客様のための安全・安心・おいしさを求めたビールの主原料である麦芽とホップの100%協働契約栽培の実現、これをベースとしたビール業界初のLCA(ライフサイクルアセスメント)の実施、ビールでは世界で初めてとなるCO₂排出量を表示したカーボンフットプリント商品の試験販売、更に発酵技術を応用した次世代エネルギーの技術開発などです。これからも当グループは本業を核としたCSR活動の推進に努め、お客様に喜んでいただける誠実なグループであり続けます。

エビスが主役の新コンセプトビヤバー「YEBISU BAR」 銀座コリドー街と霞が関コモンゲートにオープン!!

～エビスを通じて日本の味と心を表現する上質でおいしい空間～



- YEBISU BAR 銀座コリドー街店
東京都中央区銀座8-2先 銀座コリドー街
03-3573-6501
- YEBISU BAR 霞が関コモンゲート店
東京都千代田区霞が関3-2-3
霞が関コモンゲート アネックス2階
03-5501-1121

(株)サッポロライオンが2009年12月に第1号店をオープンした「YEBISU BAR」は、エビスの魅力を味わうためのビヤバーです。第1号店である「銀座コリドー街店」に続き、2010年1月には第2号店「霞が関コモンゲート店」が誕生しました。

樽生エビスの全ラインナップを揃え、個性豊かなそれぞれの味わいに合わせた料理や「琥珀エビスのチキニングリル」など材料にエビスを使用した料理をご用意し、「エビスと料理のマリアージュ」という新しいビヤバーの楽しみ方を提案しています。

店内は、エビスのブランドカラーであるエンジ色を基調とし、「和」を連想させる白木風の素材を要所に配し、モダンで落ち着いた上質な空間を演出しています。訪れた人がそれぞれに特別な感情を抱き、思い出に残るような空間を提供していきます。

Topics
06

事業拡大に向けて引き続き不動産を開発・取得



千種ガーデンテラス

恵比寿ガーデンプレイス(株)では、「恵比寿ガーデンプレイス」や「サッポロファクトリー」をはじめとする保有物件の事業強化に取り組んでいます。

不動産開発では、昨年恵比寿地区の商業施設「MLB Café TOKYO」、名古屋地区の分譲マンション「千種ガーデンテラス」が竣工しました。さらに新宿6丁目のオフィスビルを建設中です。また、物件取得戦略の一環として恵比寿で賃貸ビルを取得、子会社のサッポロ都市開発(株)では札幌市内の賃貸マンションを取得しました。

なお、地域における環境づくりへの取り組みの一環として、「恵比寿エリア」のオフィスの屋上で「日本ミツバチ」の飼育を開始しました。今後も、事業拡大成長に向けて、不動産開発や新規物件の取得を進めるとともに、地域と一体化した環境づくりにも取り組んでいきます。

Topics
07

がぶ飲み



3年ぶりに全面リニューアル がぶ飲みシリーズが新しくなって登場!

Topics 04

サッポロ飲料(株)は、持続的な利益体質への転換に向けて、存在意義を確立するブランド構築として既存ブランドの強化と独自のブランドの開発育成に取り組んでいます。

本年、101年目を迎えたリボンシロンを中心とした「リボン」シリーズや、今期、自販機向け商品を新たに追加投入する天然炭酸水「ゲロルシユタイナー」、機能性果汁飲料「からだにうれしい梅」「オーシャンズプレークランベリー」など長く愛される商品を大切に育てていきます。

中でも、がぶ飲みシリーズは、がぶがぶ飲める楽しさとおいしさをコンセプトに、1995年に発売した「がぶ飲みミルククッキー」をはじめ、「フルーツミルク」や「メロンクリームソーダ」など仲間を増やしながら、大変ご好評いただいているロングセラーブランドです。

常にその時代の中高校生から愛されるブランドを目指し、今春3年ぶりに全面リニューアルいたします。デザイン面では、おいしさ感を訴求しつつ「身近さ」や「自分たち向きである」と感じられるように明るくポップ調に、また中味は若年層の嗜好傾向を分析し、「よりはっきりとした味」や「わかりやすい味」に変更しました。がぶ飲みシリーズは、今後も「新しいこと」「楽しいこと」「おもしろいこと」を追求していきます。

Topics 05

ベトナム市場に本格的に進出 ～「サッポロ」ブランドの浸透を図る～



2009年 村上社長初訪越
ビナタバ社シン会長と

サッポログループでは、2009年12月にベトナム市場に本格的に進出することを決定しました。グループ新経営構想「戦略的提携の実施」「国際展開の推進」の具体化として、たばこ・食品・飲料製造販売を手掛けるベトナム大手国営企業「ベトナムたばこ総公社」(ビナタバ社)との合弁会社にて、ビール製造販売事業を行う予定です。

2010年よりホーチミン市郊外にてビール製造工場の建設に着手し、2012年年初には同工場製の製品を販売予定です。一方、2010年よりブランド浸透を図るためテスト販売を開始します。

サッポロの130年以上の歴史に培われたビール製造ノウハウと、ビナタバ社のベトナムにおける広範囲の販売網との融合により、プレミアムブランドとしての「サッポロ」ブランドをベトナムの消費者にアピールしていきます。



Topics

02

「ドイツ産アロマホップ」の一部使用で、ますますビールと間違えるほどのうまさへ

「サッポロ 麦とホップ」をリニューアル

サッポロビール(株)は、「サッポロ 麦とホップ」の中味およびパッケージをリニューアルするとともに、新たに缶250mlをラインナップに加え、本年1月に新発売しました。「サッポロ麦とホップ」は2008年6月の発売開始からわずか1年半で累計5億本(350ml缶換算)を達成し、新ジャンルの主力ブランドに成長しました。今回のリニューアルでは原材料の配合を見直し、「ドイツ産アロマホップ」を一部使用。麦のうまみとホップの芳醇な香りが豊かに溶け合い、「ビールと間違えるほどのうまさ」を更にアップさせています。

また、パッケージについても、ベイスである金色の色調やロゴデザイン等を変更し、品質感と高級感の一層の向上を図っています。



世界初! 宇宙を旅した大麦のビール
売上は科学教育の促進や宇宙科学研究の発展に活用

「サッポロ スペースバーレイ」を限定発売

Topics

03

2009年12月、宇宙を旅した大麦を100%使用したビール「サッポロスペースバーレイ」(1セット1万円)を世界で初めてチャリティ販売。インターネット250セット限定で、抽選販売とし、約3,000名のお客様からご応募いただきました。

本商品に使用した「宇宙を旅した大麦」は、宇宙環境での食糧自給を目的とした、ロシア科学アカデミーおよび岡山大学との共同研究の二環として、2006年に5ヶ月間宇宙に滞在した大麦品種「はるな二条」の第4代目に当たる子孫です。大麦ホップの育種設備と研究機関の両方を保有しているのは世界でもサッポロビール(株)だけであり、長年にわたる研究開発が本商品に結実しました。

なお、売上の全額は、子供たちの科学教育や、日本とロシアの宇宙科学研究に活用されます。





Topics

01

本物の豊かさで、日本のビール文化創造に多大な貢献

「エビスビール」が生誕百二十年

本年2月、「エビスビール」は生誕120年を迎えました。

「エビスビール」は1890年の発売以来、ドイツ正統の醸造法をかたく守る。こだわりのビールとして、本物の豊かさを求めるビールファンから高い評価をいただいてきました。1971年の再発売以降は、高価格ビールというジャンルの先駆となり、わが国のビール文化の発展に大きく寄与しました。

サッポロビール(株)は、エビスブランドの魅力をより多くのお客様に訴求するため、新たなマーケティング戦略を始動させています。120年目の誕生日にあたる2月25日には、恵比寿ガーデンプレイス

内(サッポロビール本社地下1階)に「エビスビール記念館」を開設しました。また、2009年に限定発売し、女性を中心に大好評を博した「シルクエビス」の全国通年発売を開始しました。さらに、2009

年12月に第1号店をオープンした「YEBISU BAR」も順次、店舗数を拡大していく計画です。

「エビスビール」には、日本・四季・粹・歴史・伝統・逸話・製法・原料など、伝えるべき価値が数多くあります。本年は、エビスビールらしさの再発見をコミュニケーション戦略の基本テーマとして、深い味わいと比類ない価値を幅広く発信していきます。



エビスビール記念館

2.25 OPEN

所在地

東京都渋谷区恵比寿4-20-1
恵比寿ガーデンプレイス内



CM of SAPPORO

大ヒット!!
「大人エレベーター」
CMライブラリー

丸くなるな、
★星になれ。

大人を旅する 不思議な エレベーター。



2010年の「サッポロ生ビール黒ラベル」は「大人の☆生」をコミュニケーションテーマに掲げ、独自の強みである「生のうまさ」に加えて、「自分なりの価値観を持った大人同士が飲むビールである」という新しい価値訴求を行ってまいります。今回のTVCMは、自分の生き方にしっかりとした思いを持つている魅力ある大人たちに出会える架空の「大人エレベーター」に、二人の青年が乗り込み、各階のフロア数に応じた年齢の大人たちに出会い、サッポロ生ビール黒ラベルを味わいながら、「大人」というテーマについて本音で語り合うという設定です。

メインキャラクターの妻夫木聡さんに加え、54歳大人代表の中村勘三郎さんと、Charさん、39歳大人代表の宮藤官九郎さん、宮迫博之さんを迎えて、実に味わいのある世界観が生まれました。生ビールを交わしてこそ生まれる「大人の世界観」を哲学的に描き、「大人の☆生」に相応しい「サッポロ生ビール黒ラベル」の魅力を表現しています。

今後もサッポロ生ビール黒ラベルに是非ご期待ください。

CM エピソード



妻夫木さんが「大人エレベーター」に乗り込むシーンから始まった、今回のCM撮影。不思議で魅力的かつ、どこか気持ちの良い雰囲気で作られたセットの中に、妻夫木さんの自然な演技が絶妙にマッチし、さらに共演者とのフリートークでも各々の個性が互いに反応し合って、実に味わいのある世界観が生まれました。出演者が本音で語る言葉の中に、何度か心にぐっとくる重みのある言葉が発せられ、スタッフ一同思わず話の内容に聞き入ってしまうほどの雰囲気となりました。また、撮影のための黒ラベルに合う料理は凝りに凝ったオリジナルで作られ、大好評でした。

2010年は シトロン発売 101年目!

1909年(明治42年)から
多くのお客様に育てられてきました。
新たな100年に向けての第一歩、
これからもリボンちゃんを中心とした
コミュニケーションを継続していきます!



リボンちゃんは、
1957年(昭和32年)
誕生当時から
長年愛されてきた
キャラクターです。

リボンシトロン®

シトロンは、1909年(明治42年)にサッポロビール社(現サッポロホールディングス社)の前身である大日本麦酒が、
レモン水を参考にシトロンを使って作った飲料水です。シトロンとはレモンに似た柑橘類のひとつです。

Ribbon シトロン



500ml
PET

190ml PET

300ml
広口ボトル

500ml
PET

1,500ml
PET

Ribbon ナポリン



500ml
PET

190ml
PET

350ml
PET

1,500ml
PET

その他(Ribbon 純水あっさり、純水すっきり、純水きりっと)



280ml
PET

500ml
PET

1,500ml
PET

280ml
PET

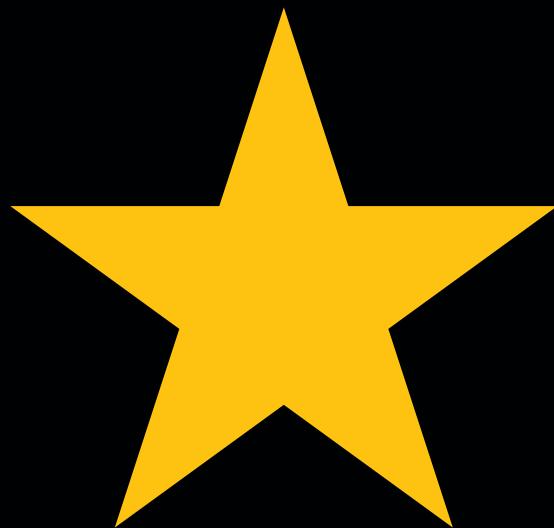
1,500ml
PET

1,500ml
PET

Vol.4

エビスビール、生誕百二十年。

SAPPOROの「明日」をお伝えします。



SAPPORO

